第6回臨床解剖研究会記録　2002. 7. 20

前立腺の3次元血管構築の解析

木村　剛　　木全亮二　　齋藤友香　　西村泰司

日本医科大学泌尿器科

目　的

前立腺内外の血管構築の詳細は知られていない．我々は最近開発された超音波Fusion 3D法にて前立腺良性疾患及び癌における前立腺内部の血管構築パターンを解析した．

対　象

臨床的に前立腺癌が疑われた127例．生検の結果，癌は72例，良性病変は55例であった．

方　法

東芝社製Power Vision 6000にFusion 3D表示ワークステーションを接続し，カラーアンギオ表示，横断面にて前立腺をスキャンし，3D再構築した．癌症例のうち24例は前立腺全摘除術を施行し，全摘標本と比較検討した．

結　果

前立腺内の血管構築は，良性病変では，左右対称かつ，移行領域に血流が豊富で，辺縁領域では乏しかった．移行領域は前立腺動脈被膜枝及び被膜枝が，辺縁領域は被膜枝が栄養動脈の中心と思われた．癌病変では，癌結節周囲や内部，近接する被膜，神経血管束，尿道周囲からの血流が増加し，血管構築は左右非対称であった．2Dのパワードプライメージと比較し，腫瘍と関連した血流イメージがより明瞭となり癌の局在診断がより簡便であった．

結　語

超音波Fusion 3D法により前立腺内外の血管構築がおおよそ明らかにできたと思われる．文献上の前立腺の血管構築と比較し報告したい．

第6回臨床解剖研究会記録　2002. 7. 20

下腹壁白線下の小血管について

磯貝　純　　渋谷　均　　坂本裕和*　佐藤達夫*

東京医科歯科大学放射線科　*同大学機能解剖学

骨盤部のCTやMRI検査で，下腹壁白線下に小血管が描出されることに，日常遭遇する．解剖用遺体を用い，これらの小血管について，走行や流入部，周囲との関係を検索した．

白線下の静脈は腹直筋と横筋筋膜（Perlemuter, Waligora）の間に存在し，臍より下行し，恥骨内側面でほぼ直角に曲がり，恥骨上肢に沿って走行し，主に下腹壁静脈根部に流入する．画像診断で描出される白線下の静脈は，通常1本または2本である．同静脈は，恥骨枝を分岐し，膀胱静脈叢と細静脈で交通するものも認められ，恥骨結合後静脈交会（Paturet）と密接に関係があることが示唆された．同静脈は下腹壁動静脈とともに腹壁筋疾患の診断に有用であると思われ，白線下静脈と命名した．